

## 刑務所に関する意識調査

### —その2 刑務所参観者の意識調査(第2報告)—

研究第一部研究官 山 口 昭 夫

研究第一部研究官 浜 井 浩 一

# 目 次

## 第Ⅰ部 調査

1 調査の目的 .....	167
2 調査の方法等 .....	167
(1) 調査対象者 .....	167
(2) 調査方法 .....	169
(3) 調査内容 .....	170
3 調査結果 .....	170
(1) 規律全般 .....	170
(2) 作業場面 .....	172
ア 私語の禁止 .....	173
イ わき見の禁止 .....	175
ウ 作業中の様子についての感想 .....	177
(3) 行進風景 .....	179
(4) 居室 .....	182
ア 備品 .....	182
イ 広さ .....	185
ウ 明るさ .....	187
エ 衛生状態 .....	190
(5) 受刑者に対する職員の態度 .....	192
(6) その他の感想 .....	194
4 考察 .....	195
(1) 日本人全体について .....	195
ア 規律全般 .....	195
イ 作業中の様子 .....	196
ウ 行進風景 .....	196
エ 居室環境 .....	196
オ 受刑者に対する職員の態度 .....	196
カ その他の感想 .....	196
(2) 外国人について .....	197
ア 規律全般 .....	197
イ 作業中の様子 .....	197
ウ 行進風景 .....	198
エ 居室環境 .....	198
オ 受刑者に対する職員の態度 .....	198
カ その他の感想 .....	198

5	まとめ .....	198
---	-----------	-----

## 第Ⅱ部 資料

1	調査票（日本語版） .....	199
2	調査票（英語版） .....	202

## 第 I 部 調査

### 1 調査の目的

本調査は、刑務所を参観した市民が抱いた刑務所の印象、特に刑務所の規律や刑務作業に対する感想について調査することにより、市民の刑務所に対する意識及び期待する役割等を明らかにし、以て今後の受刑者処遇に役立つ基礎資料を提供することを目的とする。

今回の調査は平成 8 年度に実施した調査に続く 2 回目の調査であり、同種の調査を時期を隔てて 2 回実施した理由は、本報告書のはしがきにあるとおりである。

なお、この報告書においては、平成 8 年度に実施した第一回の調査を前回調査と呼び、今回実施した第 2 回調査を今回調査と呼ぶこととする。

### 2 調査の方法等

調査の方法は、調査票の一部を変更したこと以外、前回調査と同様である。

#### (1) 調査対象者

平成 9 年 5 月 1 日から同月 31 日までの 1 か月間に、全国の刑務所を訪れた参観者を調査対象者とした。ただし、できる限り、刑務所に関して中立的立場の者の意見を得ることを期待して、次の①から④までの者を除いた参観者全員を調査対象者とした。

- ①矯正関係者（教誨師，篤志面接委員を含む。）
- ②更生保護関係者（保護司，更生保護婦人会会員を含む。）
- ③警察関係者（防犯協会会員，交通安全協会会員，補導員を含む。）
- ④検察庁，裁判所及び法務省職員

また、日本語を理解しない外国人についても、平成 9 年 5 月 1 日から同年 7 月 31 日までの 3 か月間に、全国の刑務所に来所した英語を解する参観者につき、英語版の調査票により調査を実施した。

外国人について調査期間を長く設定したのは、参観者数が少ないと予想したためである。

なお、ここでは、便宜上、日本語版調査票に回答した参観者を日本人、英語版調査票に回答した参観者を外国人と呼ぶこととする。

回収した調査票は、日本人 967 人、外国人 51 人分の調査票である。ただし、外国人については、調査期間が日本人とは異なるため、簡単に考察するにとどめ、外国人の回答結果は、対照の便宜上、各表の最下欄に参考資料として示すこととする。

表 1 及び表 2 は、調査対象者の種類別，男女及び年齢層別の内訳を示したものである。表 1 には、併せて、これらの種類別の参観者が調査期間中に参観した施設数についても示してある。

表1 調査対象者の種類・男女別内訳

種 類	総 数	男 子	女 子	不 詳	参観施設数
総 数	967 (100.0)	764 (79.0)	200 (20.7)	3 (0.3)	19
司法修習生	588 (100.0)	494 (84.0)	93 (15.8)	1 (0.2)	11
学 生	138 (100.0)	72 (52.2)	65 (47.1)	1 (0.7)	5
自 衛 官	23 (100.0)	23 (100.0)	— (—)	— (—)	1
会 社 員	133 (100.0)	124 (93.2)	9 (6.8)	— (—)	3
教育関係者	16 (100.0)	10 (62.5)	6 (37.5)	— (—)	2
そ の 他	64 (100.0)	39 (60.9)	25 (39.1)	— (—)	8
不 詳	5 (100.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	4
外 国 人	51 (100.0)	27 (52.9)	23 (45.1)	1 (2.0)	4

注 1 ( ) 内は、構成比である。

2 参観施設数は、重複計上している。

表2 調査対象者の種類・年齢層別内訳

種 類	総 数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	不 詳
総 数	967 (100.0)	42 (4.3)	617 (63.8)	124 (12.8)	77 (8.0)	47 (4.9)	31 (3.2)	6 (0.6)	23 (2.4)
司法修習生	588 (100.0)	— (—)	452 (76.9)	98 (16.7)	18 (3.1)	3 (0.5)	2 (0.3)	1 (0.2)	14 (2.4)
学 生	138 (100.0)	21 (.2)	111 (80.4)	2 (1.4)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	4 (2.9)
自 衛 官	23 (100.0)	— (—)	(65.2)	3 (13.0)	4 (17.4)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (4.3)
会 社 員	133 (100.0)	21 (15.8)	30 (22.6)	19 (14.3)	31 (23.3)	21 (15.8)	7 (5.3)	2 (1.5)	2 (1.5)
教育関係者	16 (100.0)	— (—)	7 (43.8)	1 (6.3)	4 (25.0)	3 (18.8)	— (—)	1 (6.3)	— (—)
そ の 他	64 (100.0)	— (—)	2 (3.1)	— (—)	20 (31.3)	18 (28.1)	21 (32.8)	2 (3.1)	1 (1.6)
不 詳	5 (100.0)	— (—)	— (—)	1 (20.0)	— (—)	2 (40.0)	1 (20.0)	— (—)	1 (20.0)
外 国 人	51 (100.0)	— (—)	9 (17.6)	17 (33.3)	17 (33.3)	4 (7.8)	1 (2.0)	— (—)	3 (5.9)

注 ( ) 内は、構成比である。

参観者の種類の詳細は次の通りである。

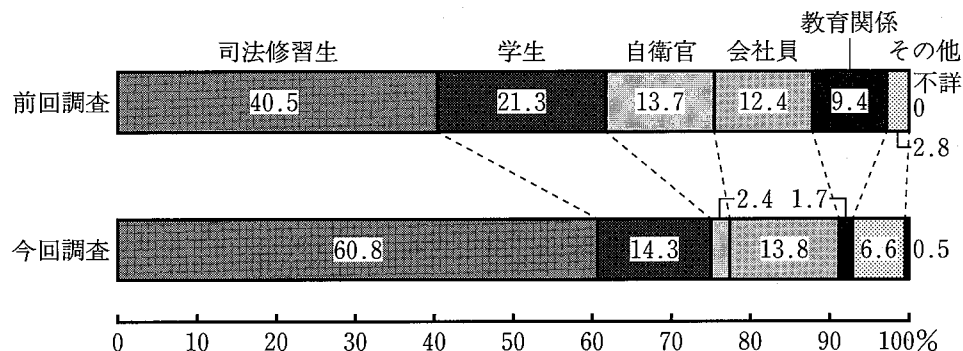
- ① 日本人 (967人) の内訳は、司法修習生588人 (60.8%)、学生138人 (14.3%)、自衛官23人 (2.4%)、会社員133人 (13.8%)、教育関係者16人 (1.7%)、その他 (ライオンズクラブ会員及び主婦) 64人 (6.6%)、不詳5人 (0.5%) である。

- ② 学生はすべて大学生（大学院生を含む。）である。
- ③ 教育関係者とは、大学、高校、中学校、小学校等の教員・職員である。
- ④ 外国人（51人）の国籍の内訳は、フランス12、アメリカ7、フィリピン5、連合王国、イラン各3、タイ、パキスタン、バングラデシュ各2、アフガニスタン、インド、インドネシア、ウガンダ、オーストラリア、ケニア、サンサルバドル、ソロモン諸島、トリニダードトバゴ、パプア・ニューギニア、フィジー、ホンコン、マレーシア、韓国、中国各1である。
- ⑤ 外国人の職業の内訳は、刑事司法関係者21人、軍人7人、その他23人である。

前回調査と比較すると、日本人は360人増加したのに対し、外国人は4人減少した。増加した年齢層は20歳代、40歳代、60歳代であり、減少した年齢層は、10歳代、30歳代、50歳代、70歳代以上である。

図1は、調査対象者の種類別構成比を前回調査と比較したものである。

図1 調査対象者の種類別構成比



前回と比較すると、学生（前回調査21.3%，今回調査14.3%）、自衛官（前回調査13.7%，今回調査2.4%）及び教育関係者（前回調査9.4%，今回調査1.7%）の比率が減少し、司法修習生（前回調査40.5%，今回調査60.8%）及び会社員（前回調査12.4%，今回調査13.8%）の比率が増加している。

## (2) 調査方法

各刑務所に依頼して、前記調査対象者につき、施設見学終了後にアンケート調査を実施した。日本語版の調査票は資料1、英語版の調査票は資料2のとおりである。前回調査の調査票と異なるところは、日本語版調査票において、(1) 刑務所内の規律について、どう感じましたか。との質問に対する選択肢として、前回調査では、

- 1 非常に厳しい    2 厳しい    3 普通  
4 緩やか    5 非常に緩やか    6 わからない

となっていたのを、今回調査においては、

- 1 厳しすぎる    2 厳正である    3 普通  
4 緩やか    5 緩やかすぎる    6 わからない

と改めた点である。

また、英語版調査票はこれと対応して、調査票の(1) How do you feel about the order and discipline in the prison? との質問に対する選択肢として、前回調査では、

1. Very Strict    2. Strict    3. Moderate  
4. Lax    5. Very Lax    6. No Idea

となっていたのを、今回調査においては、

1. Exceedingly Strict    2. Strict But Fair    3. Moderate  
4. Lax    5. Exceedingly Lax    6. No Idea

と変更した。これは、前回調査の「非常に厳しい」あるいは「厳しい」という選択肢だけでは、回答者が刑務所の厳しさ（規律）を肯定しているのか、あるいは否定しているのかの判断ができなかったためである。

なお、アンケート調査実施に当たっては、施設の担当者に対して、あらかじめ次の2点を依頼した。

- ① 「アンケートの目的は、率直な感想を聞いて今後の参考にするものであり、できる限り率直に、具体的に記述してほしい」旨を参観者に説明すること。
- ② 受刑者の行進を見ていない参観者に対しては、できる限り、ビデオ等により受刑者の行進を見せること。

### (3) 調査内容

アンケート調査票の調査項目は、次のとおりである。

- ①規律全般
- ②作業場面（私語、わき見の禁止等を含む。）
- ③行進風景
- ④居室環境（備品、広さ、明るさ及び衛生状態を含む。）
- ⑤受刑者に対する職員の態度
- ⑥その他の感想

## 3 調査結果

調査結果は、質問項目ごとに分析した。刑務所参観者に対する感想を、まず参観者全体について見た後、参観者の種類別・男女別・年齢層別についてそれぞれ見ることとする。

### (1) 規律全般

表3、表4及び表5は、「刑務所内の規律について、どのように感じましたか。」という質問に対して6つの選択肢から選んでもらった結果を、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に見たものである。

表3 種類別刑務所内の規律についての感想

種 類	総 数	厳しすぎる	厳正である	普 通	緩 や か	緩 や かる	分らない	無 回 答
総 数	814 (100.0)	12 (1.5)	404 (49.6)	187 (23.0)	131 (16.1)	4 (0.5)	60 (7.4)	16 (2.0)
司法修習生	495 (100.0)	9 (1.8)	261 (52.7)	120 (24.2)	68 (13.7)	— (—)	27 (5.5)	10 (2.0)
学 生	79 (100.0)	2 (2.5)	42 (53.2)	15 (19.0)	11 (13.9)	— (—)	7 (8.9)	2 (2.5)
自 衛 官	23 (100.0)	— (—)	12 (52.2)	3 (13.0)	1 (4.3)	1 (4.3)	6 (26.1)	— (—)
会 社 員	133 (100.0)	1 (0.8)	38 (28.6)	35 (26.3)	46 (34.6)	3 (2.3)	10 (7.5)	— (—)
教育関係者	16 (100.0)	— (—)	9 (56.3)	2 (12.5)	— (—)	— (—)	4 (25.0)	1 (6.3)
そ の 他	63 (100.0)	— (—)	40 (63.5)	12 (19.0)	5 (7.9)	— (—)	4 (6.3)	2 (3.2)
不 詳	5 (100.0)	— (—)	2 (40.0)	— (—)	— (—)	— (—)	2 (40.0)	1 (20.0)
外 国 人	51 (100.0)	5 (9.8)	31 (60.8)	8 (15.7)	— (—)	— (—)	4 (7.8)	3 (5.9)

注 ( ) 内は、構成比である。

表4 男女別刑務所内の規律についての感想

種 類	総 数	厳しすぎる	厳正である	普 通	緩 や か	緩 や かる	分らない	無 回 答
総 数	814 (100.0)	12 (1.5)	404 (49.6)	187 (23.0)	131 (16.1)	4 (0.5)	60 (7.4)	16 (2.0)
男 子	642 (100.0)	8 (1.2)	332 (51.7)	140 (21.8)	112 (17.4)	4 (0.6)	39 (6.1)	7 (1.1)
女 子	170 (100.0)	4 (2.4)	71 (41.8)	47 (27.6)	19 (11.2)	— (—)	20 (11.8)	9 (5.3)
不 詳	2 (100.0)	— (—)	1 (50.0)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (50.0)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。

表5 年齢層別刑務所内の規律についての感想

種 類	総 数	厳しすぎる	厳正である	普 通	緩 や か	緩 や かる	分らない	無 回 答
総 数	814 (100.0)	12 (1.5)	404 (49.6)	187 (23.0)	131 (16.1)	4 (0.5)	60 (7.4)	16 (2.0)
10 歳 代	28 (100.0)	1 (3.6)	4 (14.3)	11 (39.3)	7 (25.0)	1 (3.6)	4 (14.3)	— (—)
20 歳 代	497 (100.0)	9 (1.8)	247 (49.7)	115 (23.1)	80 (16.1)	1 (0.2)	35 (7.0)	10 (2.0)
30 歳 代	112 (100.0)	1 (0.9)	58 (51.8)	25 (22.3)	20 (17.9)	1 (0.9)	5 (4.5)	2 (1.8)
40 歳 代	74 (100.0)	— (—)	43 (58.1)	15 (20.3)	9 (12.2)	— (—)	6 (8.1)	1 (1.4)
50 歳 代	47 (100.0)	— (—)	20 (42.6)	12 (25.5)	8 (17.0)	— (—)	5 (10.6)	2 (4.3)
60 歳 代	30 (100.0)	— (—)	21 (70.0)	5 (16.7)	4 (13.3)	— (—)	— (—)	— (—)
70 歳代以上	6 (100.0)	— (—)	1 (16.7)	2 (33.3)	1 (16.7)	— (—)	1 (16.7)	1 (16.7)
不 詳	20 (100.0)	1 (5.0)	10 (50.0)	3 (15.0)	4 (20.0)	1 (5.0)	4 (20.0)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。



この項目では、前述のとおり、前回調査と質問を一部変更し、前回調査の選択肢「非常に厳しい」「厳しい」を、「厳しすぎる」「厳正である」とし、同じく「非常に緩やか」を「緩やかすぎる」とした。「非常に厳しい」を「厳しすぎる」とし、「非常に緩やか」を「緩やかすぎる」としたことによって、刑務所の規律に対する価値判断が明らかになると考えたからである。

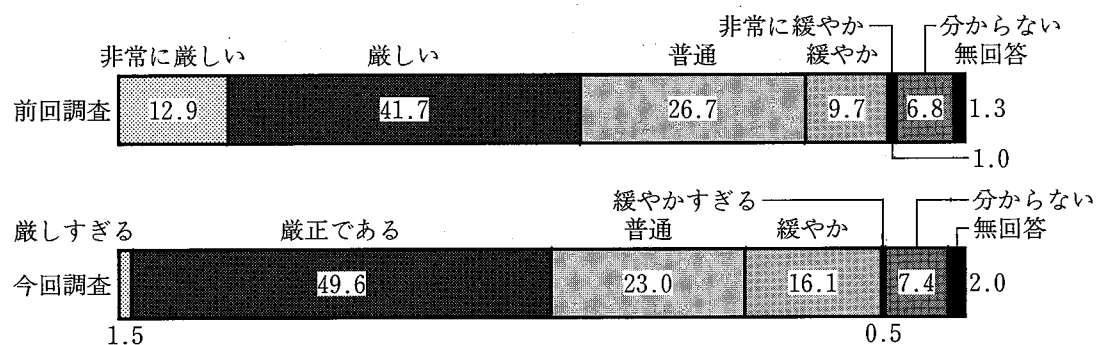
日本人全体では「厳正である」という回答が49.6%と最も多く、次いで「普通」という回答が23.0%である。「厳しすぎる」と回答した者の比率は、1.5%とごくわずかである。

年齢別に見ると、10歳代及び70歳代を除くすべての年齢において「厳正である」が最も多いが、「普通」と「緩やか」が年代によって異なる。10歳代及び70歳以上では「普通」の比率が最も高い。「厳しすぎる」という否定的な回答は30歳代までの若年層に限られている。「緩やかすぎる」は、日本人全体では0.5%と非常に少ない。

この項目の調査で、調査対象者が814人となっているのは、何らかの手違いによって前回調査と同一の調査票を使用した事例が153件あったためである。

図2は、規律に関する感想を前回の調査結果と比較したものである。

図2 規律についての感想別構成比



前回調査でも、今回調査でも刑務所の規律を厳しいと回答した者の比率は合計で50%程度と大きな変化はない。今回調査では、前回調査で判断できなかった厳しさに対する価値判断を求めているが、その結果、厳しさを肯定する「厳正である」という回答が49.6%と、厳しさを否定的にとらえる「厳しすぎる」という回答の1.5%を大きく上回っている。

この結果から見ると、「緩やかである」との感想を持つ者の比率が6.4ポイント増加したものの、刑務所の規律が「厳しい」及び「普通」とする回答が多数を占める前回調査の傾向に変化はない。

## (2) 作業場面

刑務所において受刑者が日中の大部分を過ごすのは作業場であり、作業場面の雰囲気は刑務所の雰囲気と密接な関係がある。そこで、参観者に対し作業場面を見た感想を尋ねた。工場において作業中の受刑者を見た参観者は全参観者967人のうち906人（日本人参観者の93.7%）であり、以下の結果は、工場における受刑者の作業場面を実際に参観した者の回答である。

## ア 私語の禁止

表6、表7及び表8は、作業中の私語についての感想を、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に見たものである。

表6 種類別作業中の私語の禁止についての感想

種 類	総 数	禁止は当然	禁止は不当	そ の 他	無 回 答
総 数	906 (100.0)	674 (74.4)	49 (5.4)	175 (19.3)	8 (0.9)
司 法 修 習 生	582 (100.0)	418 (71.8)	27 (4.6)	134 (23.0)	3 (0.5)
学 生	137 (100.0)	111 (81.0)	8 (5.8)	17 (12.4)	1 (0.7)
自 衛 官	1 (100.0)	— (—)	1 (100.0)	— (—)	— (—)
会 社 員	116 (100.0)	86 (74.1)	13 (11.2)	14 (12.1)	3 (2.6)
教育関係者	16 (100.0)	12 (75.0)	— (—)	3 (18.8)	1 (6.3)
そ の 他	50 (100.0)	43 (86.0)	— (—)	7 (14.0)	— (—)
不 詳	4 (100.0)	4 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)
外 国 人	49 (100.0)	33 (67.3)	13 (26.5)	3 (6.1)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。

表7 男女別作業中の私語の禁止についての感想

種 類	総 数	禁止は当然	禁止は不当	そ の 他	無 回 答
総 数	906 (100.0)	674 (74.4)	49 (5.4)	175 (19.3)	8 (0.9)
男 子	708 (100.0)	527 (74.4)	40 (5.6)	136 (19.2)	5 (0.7)
女 子	195 (100.0)	145 (74.4)	9 (4.6)	38 (19.5)	3 (1.5)
不 詳	3 (100.0)	2 (66.7)	— (—)	1 (33.3)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。

表8 年齢層別作業中の私語の禁止についての感想

種 類	総 数	禁止は当然	禁止は不当	そ の 他	無 回 答
総 数	906 (100.0)	674 (74.4)	49 (5.4)	175 (19.3)	8 (0.9)
10 歳 代	42 (100.0)	29 (69.0)	10 (23.8)	3 (7.1)	— (—)
20 歳 代	594 (100.0)	438 (73.7)	29 (4.9)	122 (20.5)	5 (0.8)
30 歳 代	116 (100.0)	85 (73.3)	4 (3.4)	25 (21.6)	2 (1.7)
40 歳 代	66 (100.0)	52 (78.8)	1 (1.5)	12 (18.2)	1 (1.5)
50 歳 代	42 (100.0)	34 (81.0)	2 (4.8)	6 (14.3)	— (—)
60 歳 代	20 (100.0)	18 (90.0)	— (—)	2 (10.0)	— (—)
70 歳代以上	5 (100.0)	4 (80.0)	— (—)	1 (20.0)	— (—)
不 詳	21 (100.0)	14 (66.7)	3 (14.3)	4 (19.0)	— (—)

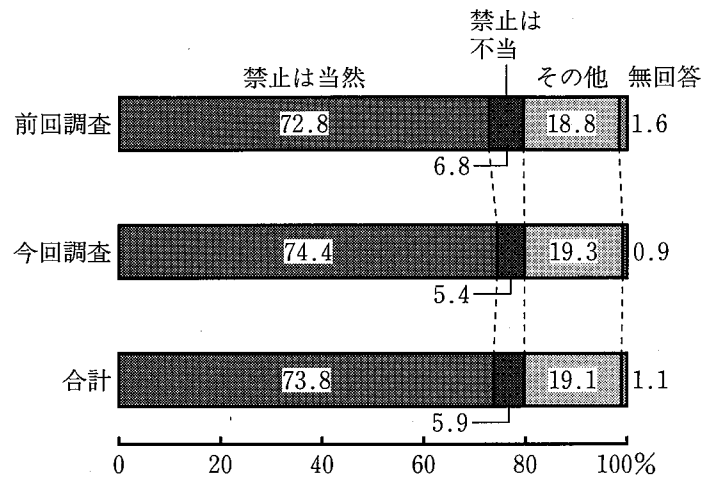
注 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、作業中の私語について、「禁止は当然である」と回答した者が74.4%を占めており、「禁止は不当である」と回答した者は5.4%である。

参観者の種類別、男女別及び年齢層別のいずれを見ても、「禁止は当然である」と回答した者の比率が最も高い。なお、年齢層別において、「禁止が不当である」と回答した者の比率は総じて年齢が低いほど高い。

図3は、作業中の私語禁止についての感想別構成比を前回調査と比較したもので、図の下段は、前回調査と今回調査の合計を示したものである。

図3 作業中の私語の禁止についての感想別構成比



前回調査と比較すると「禁止は当然」が72.8%から74.4%と1.6ポイント増加し、「禁止は不当」が6.8%から5.4%と1.4ポイント減少している。前回調査と同様に、「禁止は当然」とする意見が多数を占め、前回調査と今回調査を合計した結果では、73.8%となっている。

#### イ わき見の禁止

表9、表10及び表11は、作業中のわき見の禁止についての感想を、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に見たものである。

表9 種類別作業中のわき見の禁止についての感想

種類	総数	禁止は当然	禁止は不当	その他	無回答
総数	906	637	85	163	21
	(100.0)	(70.3)	(9.4)	(18.0)	(2.3)
司法修習生	582	410	50	114	8
	(100.0)	(70.4)	(8.6)	(19.6)	(1.4)
学生	137	96	17	19	5
	(100.0)	(70.1)	(12.4)	(13.9)	(3.6)
自衛官	1	1	—	—	—
	(100.0)	(100.0)	(—)	(—)	(—)
会社員	116	82	15	13	6
	(100.0)	(70.7)	(12.9)	(11.2)	(5.2)
教育関係者	16	10	1	4	1
	(100.0)	(62.5)	(6.3)	(25.0)	(6.3)
その他	50	34	2	13	1
	(100.0)	(68.0)	(4.0)	(26.0)	(2.0)
不詳	4	4	—	—	—
	(100.0)	(100.0)	(—)	(—)	(—)
外国人	49	26	17	5	1
	(100.0)	(53.1)	(34.7)	(10.2)	(2.0)

注 ( ) 内は、構成比である。

表10 男女別作業中のわき見の禁止についての感想

種 類	総 数	禁止は当然	禁止は不当	そ の 他	無 回 答
総 数	906 (100.0)	637 (70.3)	85 (9.4)	163 (18.0)	21 (2.3)
男 子	708 (100.0)	507 (71.6)	63 (8.9)	123 (17.4)	15 (2.1)
女 子	195 (100.0)	128 (65.6)	22 (11.3)	40 (20.5)	5 (2.6)
不 詳	3 (100.0)	2 (66.7)	— (—)	— (—)	1 (33.3)

注 ( ) 内は、構成比である。

表11 年齢層別作業中のわき見の禁止についての感想

種 類	総 数	厳しすぎる	厳正である	普 通	無 回 答
総 数	906 (100.0)	637 (70.3)	85 (9.4)	163 (18.0)	21 (2.3)
10 歳 代	42 (100.0)	23 (54.8)	10 (23.8)	7 (16.7)	2 (4.8)
20 歳 代	594 (100.0)	423 (71.2)	56 (9.4)	107 (18.0)	8 (1.3)
30 歳 代	116 (100.0)	80 (69.0)	10 (8.6)	23 (19.8)	3 (2.6)
40 歳 代	66 (100.0)	47 (71.2)	4 (6.1)	12 (18.2)	3 (4.5)
50 歳 代	42 (100.0)	30 (71.4)	2 (4.8)	8 (19.0)	2 (4.8)
60 歳 代	20 (100.0)	15 (75.0)	— (—)	4 (20.0)	1 (5.0)
70 歳代以上	5 (100.0)	4 (80.0)	1 (20.0)	— (—)	— (—)
不 詳	21 (100.0)	15 (71.4)	2 (9.5)	2 (9.5)	2 (9.5)

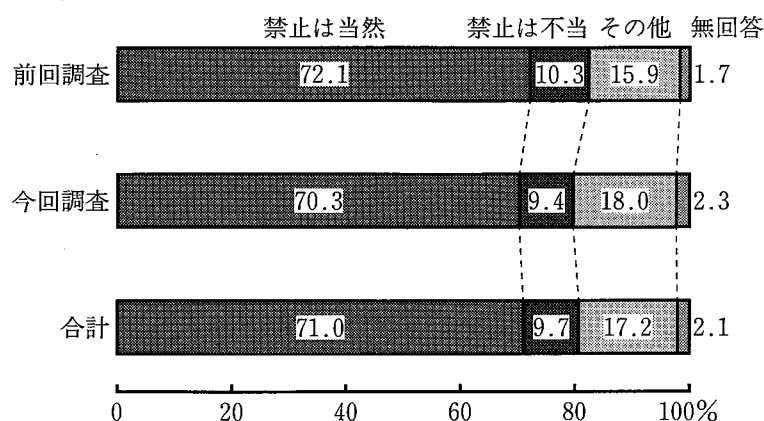
注 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、作業中のわき見について「禁止は当然である」と回答した者が70.3%を占めており、「禁止は不当である」と回答した者は9.4%である。

参観者の種類別、男女別及び年齢別のいずれを見ても、「禁止は当然である」と回答した者の比率が最も高い。

図4は、作業中のわき見禁止についての感想別構成比を前回調査と比較したもので、図の下段は、前回調査と今回調査の合計を示したものである。

図4 作業中のわき見禁止についての感想別構成比



前回調査と比較すると、「禁止は当然」とする者の比率が72.1%から70.3%と1.8ポイント、「禁止は不当」とする者が10.3%から9.4%と0.9ポイントそれぞれ減少しているが、作業中のわき見の禁止を肯定する者が多数を占める傾向に変化はない。前回調査と今回調査の合計においては、「禁止は当然」とする者の比率が71.0%となっている。

#### ウ 作業中の様子についての感想

表12、表13及び表14は、「受刑者が工場で働いている様子を見て、どのように感じましたか。」という質問について自由記述形式で回答してもらった結果を、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に見たものである。

表12 種類別工場における作業中の様子についての感想

種 類	総 数	まじめ	厳しい	一般と変わらない	社会復帰に役立つ	社会復帰に役立つ な	自由がない	その他	無回答
総 数	906 (100.0)	493 (54.4)	66 (7.3)	66 (7.3)	44 (4.9)	15 (1.7)	90 (9.9)	113 (12.5)	127 (14.0)
司 法 修 習 生	582 (100.0)	330 (56.7)	54 (9.3)	41 (7.0)	23 (4.0)	10 (1.7)	63 (10.8)	69 (11.9)	75 (12.9)
学 生	137 (100.0)	78 (56.9)	6 (4.4)	11 (8.0)	6 (4.4)	2 (1.5)	16 (11.7)	15 (10.9)	14 (10.2)
自 衛 官	1 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (100.0)
会 社 員	116 (100.0)	51 (44.0)	3 (2.6)	10 (8.6)	10 (8.6)	3 (2.6)	7 (6.0)	18 (15.5)	24 (20.7)
教育関係者	16 (100.0)	6 (37.5)	1 (6.3)	2 (12.5)	— (—)	— (—)	1 (6.3)	2 (12.5)	4 (25.0)
そ の 他	50 (100.0)	27 (54.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	5 (10.0)	— (—)	3 (6.0)	8 (16.0)	7 (14.0)
不 詳	4 (100.0)	1 (25.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (25.0)	2 (50.0)
外 国 人	49 (100.0)	10 (20.4)	5 (10.2)	— (—)	9 (18.4)	1 (2.0)	8 (16.3)	10 (20.4)	13 (26.5)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

表13 男女別工場における作業中の様子についての感想

種 類	総 数	まじめ	厳しい	一般と変わらない	社会復帰に役立つ	社会復帰に役立たない	自由がない	その他	無回答
総 数	906 (100.0)	493 (54.4)	66 (7.3)	66 (7.3)	44 (4.9)	15 (1.7)	90 (9.9)	113 (12.5)	127 (14.0)
男 子	708 (100.0)	391 (55.2)	49 (6.9)	52 (7.3)	33 (4.7)	12 (1.7)	67 (9.5)	79 (11.2)	105 (14.8)
女 子	195 (100.0)	102 (52.3)	17 (8.7)	14 (7.2)	11 (5.6)	3 (1.5)	23 (11.8)	33 (16.9)	20 (10.3)
不 詳	3 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (33.3)	2 (66.7)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

表14 年齢層別工場における作業の様子についての感想

種 類	総 数	まじめ	厳しい	一般と変わらない	社会復帰に役立つ	社会復帰に役立たない	自由がない	その他	無回答
総 数	906 (100.0)	493 (54.4)	66 (7.3)	66 (7.3)	44 (4.9)	15 (1.7)	90 (9.9)	113 (12.5)	127 (14.0)
10 歳 代	42 (100.0)	22 (52.4)	1 (2.4)	4 (9.5)	1 (2.4)	1 (2.4)	5 (11.9)	8 (19.0)	4 (9.5)
20 歳 代	594 (100.0)	337 (56.7)	46 (7.7)	45 (7.6)	22 (3.7)	6 (1.0)	62 (10.4)	76 (12.8)	72 (12.1)
30 歳 代	116 (100.0)	64 (55.2)	12 (10.3)	8 (6.9)	3 (2.6)	5 (4.3)	11 (9.5)	8 (6.9)	20 (17.2)
40 歳 代	66 (100.0)	30 (45.5)	3 (4.5)	5 (7.6)	7 (10.6)	1 (1.5)	6 (9.1)	6 (9.1)	15 (22.7)
50 歳 代	42 (100.0)	17 (40.5)	2 (4.8)	2 (4.8)	5 (11.9)	1 (2.4)	4 (9.5)	7 (16.7)	8 (19.0)
60 歳 代	20 (100.0)	15 (75.0)	— (—)	— (—)	1 (5.0)	— (—)	— (—)	3 (15.0)	3 (15.0)
70 歳 代 以上	5 (100.0)	1 (20.0)	— (—)	— (—)	1 (20.0)	1 (20.0)	— (—)	1 (20.0)	1 (20.0)
不 詳	21 (100.0)	7 (33.3)	2 (9.5)	2 (9.5)	4 (19.0)	— (—)	2 (9.5)	4 (19.0)	4 (19.0)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、「まじめ」という内容の回答が、54.4%と過半数を占めている。一方、「社会復帰に役立たない」、「自由がない」という回答はそれぞれ1.7%、9.9%である。

参観者の種類別、男女別及び年齢層別のいずれを見ても、「まじめ」と回答した者の比率が最も高い。

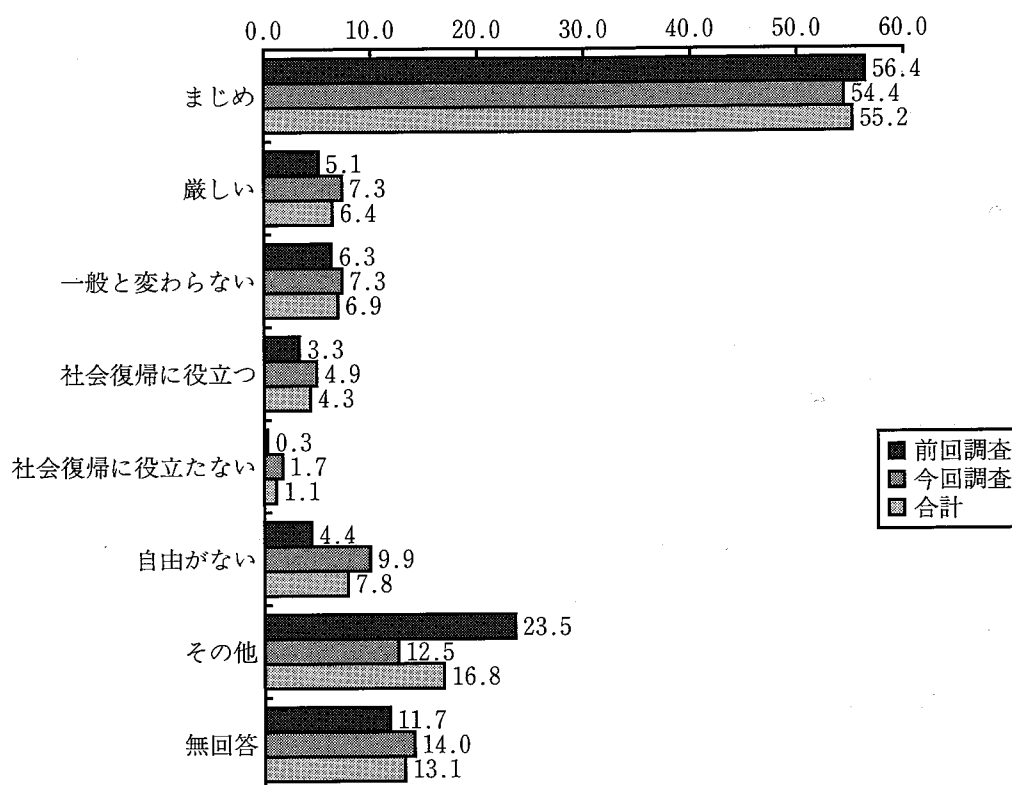
参観者の種類別に見ると、「まじめ」と回答した者の比率は司法修習生、学生では高く、会社員、教育関係者ではやや低い。後二者では「一般と変わらない」と回答した者の比率が他と比べるとやや高い。

男女別に見ると、「まじめ」と回答した者の比率にはほとんど差がないが、女子の方が「自由がない」と回答した者の比率が高い。

年齢層別に見ると、ほとんどの項目について年齢による差は認められないが、「社会復帰に役立つ」と回答した者の比率は年齢層が高いほど高くなっている。

図5は、作業場面を見た日本人全体について、作業中の様子についての感想を、前回調査と比較するとともに、前回調査と今回調査の合計を示したものである。

図5 作業中の様子についての感想別構成比



いずれの調査においても「まじめ」と回答した者が多数を占めている（前回56.4%，今回54.4%）傾向に変化はない。なお、「厳しい」（前回5.1%，今回7.3%）及び「一般と変わらない」（前回6.3%，今回7.3%）との意見はそれぞれ増加した。また、「社会復帰に役立つ」（前回3.3%，今回4.9%）及び「社会復帰に役立たない」（前回0.3%，今回1.7%）はそれぞれ増加している。

全体として、参観者の作業風景に対する感想は、前回調査と比較して変化はなく、「その他」の意見が減少するなど、参観者全体が作業に対して具体的な評価をするようになったことが変化した点である。両調査の合計においても、「まじめ」と回答した者が多数を占めている。

### (3) 行進風景

受刑者の行進とは、居室と工場の往復や工場から運動場などへの往復など、特に受刑者が集団で移動するときに、全員が歩調を合わせて歩くことであるが、一般の社会生活においては見ることが少ないために、受刑者の行進を実際の場面やビデオなどで見た人に対してのみ、「受刑者の行進風景を実際の場面や、ビデオなどで見て、どのように感じましたか。」と質問した。回答者は704人（日本人の72.8%）である。



表15、表16及び表17は、行進風景についての感想を、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に見たものである。

表15 種類別行進風景についての感想

種 類	総 数	整然として いる	規 律 正しい	何も感じ なかった	不自然 である	規律に しづら れすぎ	その他	無回答
総 数	704 (100.0)	161 (22.9)	286 (40.6)	22 (3.1)	133 (18.9)	67 (9.5)	33 (4.7)	2 (0.3)
司 法 修 習 生	415 (100.0)	81 (19.5)	133 (32.0)	16 (3.9)	103 (24.8)	54 (13.0)	27 (6.5)	1 (0.2)
学 生	95 (100.0)	31 (32.6)	38 (40.0)	1 (1.1)	18 (18.9)	5 (5.3)	2 (2.1)	— (—)
自 衛 官	23 (100.0)	7 (30.4)	13 (56.5)	— (—)	3 (13.0)	— (—)	— (—)	— (—)
会 社 員	117 (100.0)	27 (23.1)	68 (58.1)	4 (3.4)	8 (6.8)	7 (6.0)	2 (1.7)	1 (0.9)
教育関係者	4 (100.0)	3 (75.0)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (25.0)	— (—)	— (—)
そ の 他	45 (100.0)	10 (22.2)	32 (71.1)	1 (2.2)	1 (2.2)	— (—)	1 (2.2)	— (—)
不 詳	5 (100.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (20.0)	— (—)
外 国 人	22 (100.0)	1 (4.5)	7 (31.8)	1 (4.5)	2 (9.1)	2 (9.1)	1 (4.5)	8 (36.4)

注 ( ) 内は、構成比である。

表16 男女別行進風景についての感想

種 類	総 数	整然として いる	規 律 正しい	何も感じ なかった	不自然 である	規律に しづら れすぎ	その他	無回答
総 数	704 (100.0)	161 (22.9)	286 (40.6)	22 (3.1)	133 (18.9)	67 (9.5)	33 (4.7)	2 (0.3)
男 子	610 (100.0)	135 (22.1)	244 (40.0)	20 (3.3)	118 (19.3)	63 (10.3)	28 (4.6)	2 (0.3)
女 子	91 (100.0)	26 (28.6)	41 (45.1)	2 (2.2)	15 (16.5)	3 (3.3)	4 (4.4)	— (—)
不 詳	3 (100.0)	— (—)	1 (33.3)	— (—)	— (—)	1 (33.3)	1 (33.3)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。

表17 年齢層別行進風景についての感想

種 類	総 数	整然として いる	規 律 正しい	何も感じ なかった	不自然 である	規律に しばられ すぎ	その他	無回答
総 数	704	161	286	22	133	67	33	2
	(100.0)	(22.9)	(40.6)	(3.1)	(18.9)	(9.5)	(4.7)	(0.3)
10 歳 代	40	9	18	—	7	5	1	—
	(100.0)	(22.5)	(45.0)	(—)	(17.5)	(12.5)	(2.5)	(—)
20 歳 代	428	89	154	17	93	48	25	2
	(100.0)	(20.8)	(36.0)	(4.0)	(21.7)	(11.2)	(5.8)	(0.5)
30 歳 代	98	20	43	3	24	7	1	—
	(100.0)	(20.4)	(43.9)	(3.1)	(24.5)	(7.1)	(1.0)	(—)
40 歳 代	64	23	31	1	6	2	1	—
	(100.0)	(35.9)	(48.4)	(1.6)	(9.4)	(3.1)	(1.6)	(—)
50 歳 代	35	10	22	1	1	1	—	—
	(100.0)	(28.6)	(62.9)	(2.9)	(2.9)	(2.9)	(—)	(—)
60 歳 代	21	5	14	—	—	1	1	—
	(100.0)	(23.8)	(66.7)	(—)	(—)	(4.8)	(4.8)	(—)
70 歳代以降	4	1	2	—	—	—	1	—
	(100.0)	(25.0)	(50.0)	(—)	(—)	(—)	(25.0)	(—)
不 詳	14	4	2	—	2	3	3	—
	(100.0)	(28.6)	(14.3)	(—)	(14.3)	(21.4)	(21.4)	(—)

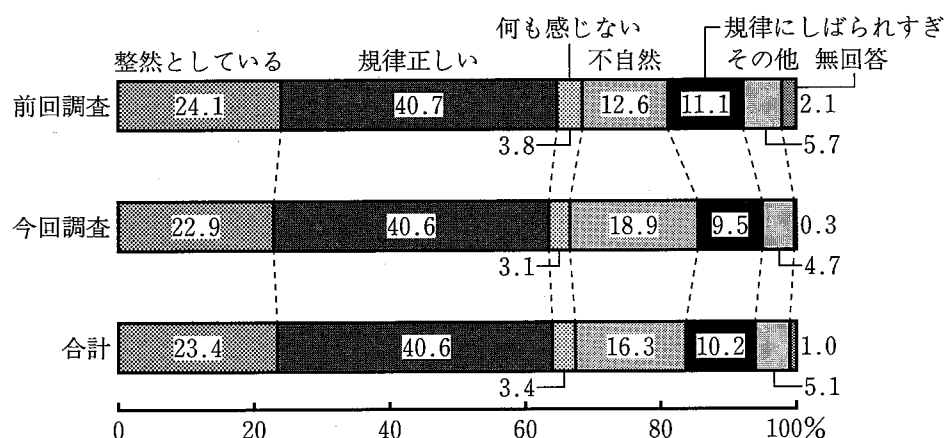
注 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、「規律正しい」という回答が40.6%と最も多く、次いで「整然としている」という回答が22.9%である。「不自然である」、「規律にしばられすぎている感じ」という回答はそれぞれ18.9%、9.5%である。

「整然としている」と回答している者の比率で最も高いのは、種類別の教育関係者であり、それ以外では、種類別、男女別及び年齢層別のいずれにおいても、「規律正しい」の比率が最も高い。また、「不自然である」、「規律にしばられすぎている感じ」と回答した者の比率は、司法修習生、学生、教育関係者において高く、会社員、自衛官において低い。また、男女別では、男子の方が「不自然である」又は「規則にしばられすぎている感じ」と回答した者の比率が高く、年齢層別では、40歳代までの若い年齢層に、これらの感想をもつ者の比率が高い。

図6は、行進の風景に関する感想別構成比を、前回調査と比較したもので、図の下段は、前回調査と今回調査の合計を示したものである。

図6 行進風景についての感想別構成比



「整然としている」という回答と「規律正しい」との回答を合計したものが多数を占める（前回64.8％，今回63.5％）傾向に変化はない。

#### (4) 居室

受刑者の居室を実際に見た者に対して「受刑者の居室（へや）を見て、どのように感じましたか。」と質問した。回答者は952人（日本人の98.4％）である。ここでは、居室の備品，広さ，明るさ及び衛生状態の4項目について調査した。

##### ア 備品

表18，表19及び表20は，それぞれ参観者の種類別，男女別及び年齢層別に，居室の備品についての感想を見たものである。

表18 種類別居室の備品についての感想

種 類	総 数	多 い	普 通	少 な い	無 回 答
総 数	952 (100.0)	90 (9.5)	608 (63.9)	251 (26.4)	3 (0.3)
司 法 修 習 生	580 (100.0)	55 (9.5)	401 (69.1)	122 (21.0)	2 (0.3)
学 生	137 (100.0)	17 (12.4)	74 (54.0)	46 (33.6)	— (—)
自 衛 官	22 (100.0)	3 (13.6)	8 (36.4)	11 (50.0)	— (—)
会 社 員	132 (100.0)	8 (6.1)	70 (53.0)	54 (40.9)	— (—)
教育関係者	15 (100.0)	1 (6.7)	8 (53.3)	6 (40.0)	— (—)
そ の 他	62 (100.0)	6 (9.7)	44 (71.0)	11 (17.7)	1 (1.6)
不 詳	4 (100.0)	— (—)	3 (75.0)	1 (25.0)	— (—)
外 国 人	50 (100.0)	4 (8.0)	41 (82.0)	4 (8.0)	1 (2.0)

注 ( ) 内は、構成比である。

表19 男女別居室の備品についての感想

種 類	総 数	多 い	普 通	少 な い	無 回 答
総 数	952 (100.0)	90 (9.5)	608 (63.9)	251 (26.4)	3 (0.3)
男 子	752 (100.0)	69 (9.2)	478 (63.6)	203 (27.0)	2 (0.3)
女 子	197 (100.0)	21 (10.7)	128 (65.0)	47 (23.9)	1 (0.5)
不 詳	3 (100.0)	— (—)	2 (66.7)	1 (33.3)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。

表20 年齢層別居室の備品についての感想

種 類	総 数	多 い	普 通	少 な い	無 回 答
総 数	952 (100.0)	90 (9.5)	608 (63.9)	251 (26.4)	3 (0.3)
10 歳 代	42 (100.0)	7 (16.7)	17 (40.5)	18 (42.9)	— (—)
20 歳 代	609 (100.0)	63 (10.3)	400 (65.7)	144 (23.6)	2 (0.3)
30 歳 代	122 (100.0)	9 (7.4)	77 (63.1)	36 (29.5)	— (—)
40 歳 代	76 (100.0)	6 (7.9)	47 (61.8)	23 (30.3)	— (—)
50 歳 代	45 (100.0)	3 (6.7)	25 (55.6)	16 (35.6)	1 (2.2)
60 歳 代	30 (100.0)	1 (3.3)	23 (76.7)	6 (20.0)	— (—)
70 歳代以上	6 (100.0)	— (—)	5 (83.3)	1 (16.7)	— (—)
不 詳	22 (100.0)	1 (4.5)	14 (63.6)	7 (31.8)	— (—)

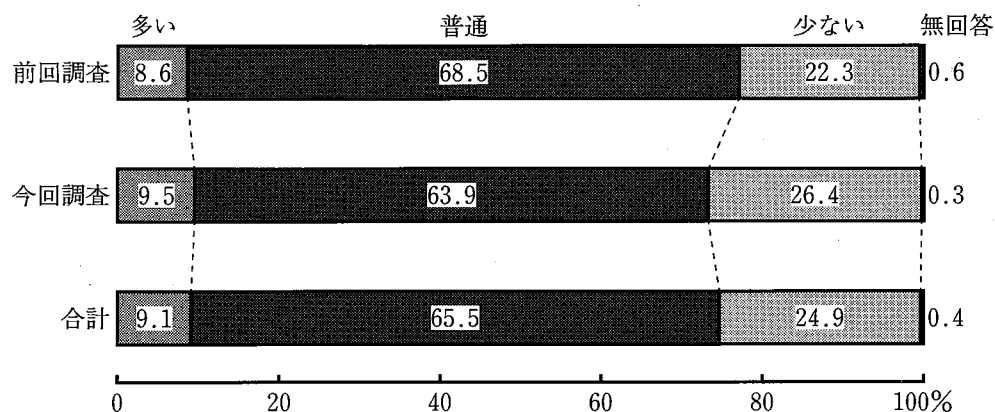
注 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、「普通」が63.9%と最も多く、次いで「少ない」が26.4%となっている。

参観者の種類別、男女別及び年齢層別のほとんどにおいて、「普通」と回答した者の比率が最も高い。ただし、自衛官は「多い」と回答した者が13.6%である一方、「少ない」と回答した者が半数を占め、また、会社員及び教育関係者は「普通」又は「少ない」と回答した者が約半数ずつになっている。年齢層別に見ると、10歳代の者の中で「少ない」と回答した者が42.9%と最も多くなっている。

図7は、居室の備品についての感想別構成比を前回調査と比較したもので、図の下段は、前回調査と今回調査の合計を示したものである。

図7 居室の備品についての感想別構成比



前回調査と比較すると、備品が「少ない」と回答した者は22.3%から26.4%と4.1ポイント増加しているが、肯定的意見である「多い」と「普通」の回答の合計は前回は77.1%、今回は73.4%と同様の傾向を示している。

### イ 広さ

表21、表22及び表23は、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に、居室の広さについての感想を見たものである。

表21 種類別居室の広さについての感想

種類	総数	広い	普通	狭い	無回答
総数	952	31	446	472	3
	(100.0)	(3.3)	(46.8)	(49.6)	(0.3)
司法修習生	580	13	278	286	3
	(100.0)	(2.2)	(47.9)	(49.3)	(0.5)
学生	137	4	57	76	—
	(100.0)	(2.9)	(41.6)	(55.5)	(—)
自衛官	22	2	8	12	—
	(100.0)	(9.1)	(36.4)	(54.5)	(—)
会社員	132	10	63	59	—
	(100.0)	(7.6)	(47.7)	(44.7)	(—)
教育関係者	15	—	4	11	—
	(100.0)	(—)	(26.7)	(73.3)	(—)
その他	62	2	34	26	—
	(100.0)	(3.2)	(54.8)	(41.9)	(—)
不詳	4	—	2	2	—
	(100.0)	(—)	(50.0)	(50.0)	(—)
外国人	50	3	31	15	1
	(100.0)	(6.0)	(62.0)	(30.0)	(2.0)

注 ( ) 内は、構成比である。

表22 男女別居室の広さについての感想

種 類	総 数	広 い	普 通	狭 い	無 回 答
総 数	952 (100.0)	31 (3.3)	446 (46.8)	472 (49.6)	3 (0.3)
男 子	752 (100.0)	25 (3.3)	359 (47.7)	366 (48.7)	2 (0.3)
女 子	197 (100.0)	5 (2.5)	86 (43.7)	105 (53.3)	1 (0.5)
不 詳	3 (100.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。

表23 年齢層別居室の広さについての感想

種 類	総 数	広 い	普 通	狭 い	無 回 答
総 数	952 (100.0)	31 (3.3)	446 (46.8)	472 (49.6)	3 (0.3)
10 歳 代	42 (100.0)	— (—)	22 (52.4)	20 (47.6)	— (—)
20 歳 代	609 (100.0)	19 (3.1)	282 (46.3)	305 (50.1)	3 (0.5)
30 歳 代	122 (100.0)	5 (4.1)	58 (47.5)	59 (48.4)	— (—)
40 歳 代	76 (100.0)	4 (5.3)	36 (47.4)	36 (47.4)	— (—)
50 歳 代	45 (100.0)	2 (4.4)	17 (37.8)	26 (57.8)	— (—)
60 歳 代	30 (100.0)	1 (3.3)	20 (66.7)	9 (30.0)	— (—)
70 歳代以上	6 (100.0)	— (—)	3 (50.0)	3 (50.0)	— (—)
不 詳	22 (100.0)	— (—)	8 (36.4)	14 (63.6)	— (—)

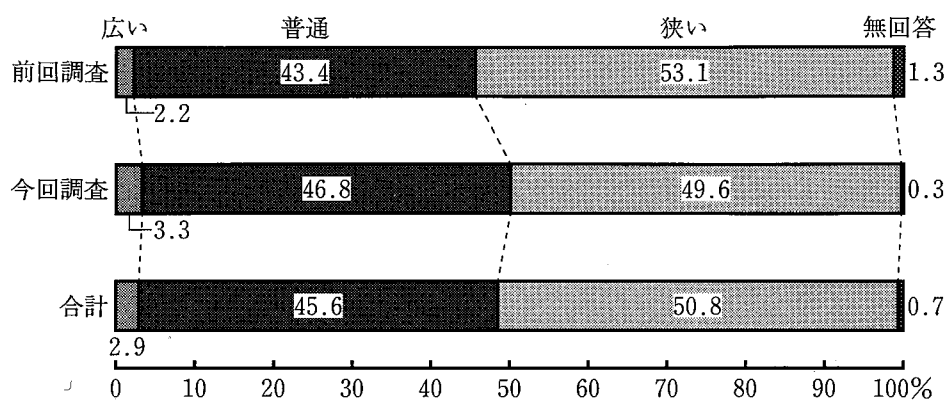
注 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、「狭い」と回答した者が49.6%と最も多く、次いで「普通」と回答した者が46.8%となっている。「広い」と回答した者は3.3%である。

参観者の種類別、男女別及び年齢層別のいずれにおいても、意見は「狭い」及び「普通」に集中し、特に女子では半数以上が「狭い」と回答し、年齢層別においても20歳代、50歳代及び70歳代以上の3つの年齢層で「狭い」の回答が半数を超えている。ただし、60歳代においては「普通」と回答した者の比率が66.7%と最も高い。

図8は、居室を見た日本人全体について、居室の広さについての感想別構成比を前回調査と比較したものである。

図8 居室の広さについての感想別構成比



前回調査において、「狭い」と回答した者は53.1%と半数を超えていたが、今回調査においては、49.6%となった。また「広い」及び「普通」の合計は前回が45.6%と半数以下であったものが、今回の調査においては50.1%とわずかながら半数を超えている。両調査の合計では、「狭い」と回答した者の比率は、50.8%になっている。

#### ウ 明るさ

表24、表25及び表26は、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に、居室の明るさについての感想を見たものである。



表24 種類別居室の明るさについての感想

種 類	総 数	明 る い	普 通	暗 い	無 回 答
総 数	952 (100.0)	265 (27.8)	567 (59.6)	116 (12.2)	4 (0.4)
司 法 修 習 生	580 (100.0)	149 (25.7)	348 (60.0)	79 (13.6)	4 (0.7)
学 生	137 (100.0)	36 (26.3)	83 (60.6)	18 (13.1)	— (—)
自 衛 官	22 (100.0)	8 (36.4)	13 (59.1)	1 (4.5)	— (—)
会 社 員	132 (100.0)	37 (28.0)	84 (63.6)	11 (8.3)	— (—)
教育関係者	15 (100.0)	3 (20.0)	11 (73.3)	1 (6.7)	— (—)
そ の 他	62 (100.0)	31 (50.0)	25 (40.3)	6 (9.7)	— (—)
不 詳	4 (100.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	— (—)	— (—)
外 国 人	50 (100.0)	10 (20.0)	36 (72.0)	2 (4.0)	2 (4.0)

注 ( ) 内は、構成比である。

表25 男女別居室の明るさについての感想

種 類	総 数	明 る い	普 通	暗 い	無 回 答
総 数	952 (100.0)	265 (27.8)	567 (59.6)	116 (12.2)	4 (0.4)
男 子	752 (100.0)	189 (25.1)	458 (60.9)	102 (13.6)	3 (0.4)
女 子	197 (100.0)	74 (37.6)	108 (54.8)	14 (7.1)	1 (0.5)
不 詳	3 (100.0)	2 (66.7)	1 (33.3)	— (—)	— (—)

注 ( ) 内は、構成比である。

表26 年齢層別居室の明るさについての感想

種 類	総 数	明 る い	普 通	暗 い	無 回 答
総 数	952	265	567	116	4
	(100.0)	(27.8)	(59.6)	(12.2)	(0.4)
10 歳 代	42	5	27	10	—
	(100.0)	(11.9)	(64.3)	(23.8)	(—)
20 歳 代	609	154	371	80	4
	(100.0)	(25.3)	(60.9)	(13.1)	(0.7)
30 歳 代	122	35	71	16	—
	(100.0)	(28.7)	(58.2)	(13.1)	(—)
40 歳 代	76	35	38	3	—
	(100.0)	(46.1)	(50.0)	(3.9)	(—)
50 歳 代	45	13	27	5	—
	(100.0)	(28.9)	(60.0)	(11.1)	(—)
60 歳 代	30	14	16	—	—
	(100.0)	(46.7)	(53.3)	(—)	(—)
70 歳代以上	6	2	4	—	—
	(100.0)	(33.3)	(66.7)	(—)	(—)
不 詳	22	7	13	2	—
	(100.0)	(31.8)	(59.1)	(9.1)	(—)

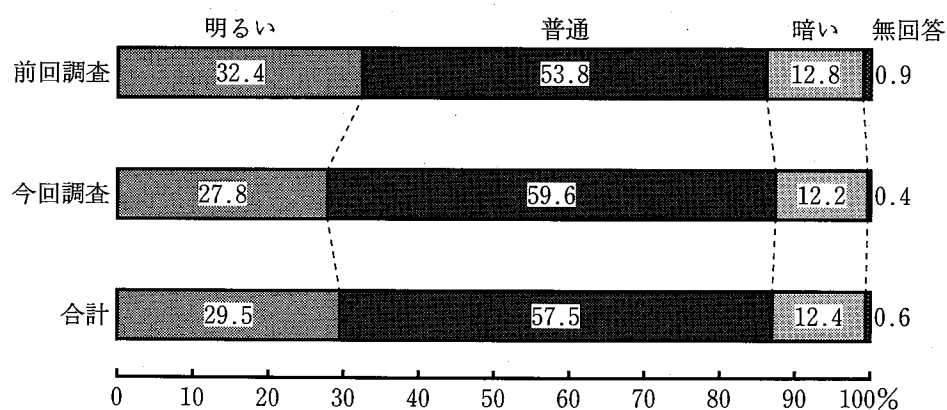
注 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、「普通」と回答した者が59.6%と最も多く、次いで「明るい」と回答した者が27.8%となっている。「暗い」と回答した者は12.2%である。

参観者の種類別、男女別及び年齢層別のいずれにおいても、「普通」と回答した者の比率が最も高い。「明るい」と回答した者の比率が40%を超えている年齢層は、40歳代及び60歳代である。

図9は、居室を見た日本人全体について、居室の明るさについての感想別構成比を前回調査と比較したものである。図の下段は、前回調査と今回調査を合計した結果を示したものである。

図9 居室の明るさについての感想別構成比



「暗い」と回答した者を比較すると、前回（12.8%）と今回（12.2%）はほぼ同率である。その他の回答では、「明るい」がわずかに減少（前回32.4%、今回27.8%）し、「普通」が増加（前回53.8%、今回59.6%）した。居室が「普通」又は「明るい」と回答した参観者が大多数である傾向に変化はない。

## エ 衛生状態

表27、表28及び表29は、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に、居室の衛生状態についての感想を見たものである。

表27 種類別居室の衛生状態についての感想

種 類	総 数	清 潔	普 通	不 潔	無 回 答
総 数	952 (100.0)	425 (44.6)	490 (51.5)	31 (3.3)	6 (0.6)
司 法 修 習 生	580 (100.0)	229 (39.5)	322 (55.5)	25 (4.3)	4 (0.7)
学 生	137 (100.0)	67 (48.9)	65 (47.4)	3 (2.2)	2 (1.5)
自 衛 官	22 (100.0)	10 (45.5)	12 (54.5)	— (—)	— (—)
会 社 員	132 (100.0)	67 (50.8)	63 (47.7)	2 (1.5)	— (—)
教育関係者	15 (100.0)	8 (53.3)	7 (46.7)	— (—)	— (—)
そ の 他	62 (100.0)	42 (67.7)	19 (30.6)	1 (1.6)	— (—)
不 詳	4 (100.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	— (—)	— (—)
外 国 人	50 (100.0)	39 (78.0)	9 (18.0)	— (—)	2 (4.0)

注（ ）内は、構成比である。

表28 男女別居室の衛生状態についての感想

種 類	総 数	清 潔	普 通	不 潔	無 回 答
総 数	952 (100.0)	425 (44.6)	490 (51.5)	31 (3.3)	6 (0.6)
男 子	752 (100.0)	321 (42.7)	398 (52.9)	30 (4.0)	3 (0.4)
女 子	197 (100.0)	102 (51.8)	91 (46.2)	1 (0.5)	3 (1.5)
不 詳	3 (100.0)	2 (66.7)	1 (33.3)	— (—)	— (—)

注（ ）内は、構成比である。

表29 年齢層別居室の衛生状態についての感想

種 類	総 数	清 潔	普 通	不 潔	無 回 答
総 数	952	425	490	31	6
	(100.0)	(44.6)	(51.5)	(3.3)	(0.6)
10 歳 代	42	14	26	2	—
	(100.0)	(33.3)	(61.9)	(4.8)	(—)
20 歳 代	609	256	327	21	5
	(100.0)	(42.0)	(53.7)	(3.4)	(0.8)
30 歳 代	122	49	66	6	1
	(100.0)	(40.2)	(54.1)	(4.9)	(0.8)
40 歳 代	76	48	27	1	—
	(100.0)	(63.2)	(35.5)	(1.3)	(—)
50 歳 代	45	20	25	—	—
	(100.0)	(44.4)	(55.6)	(—)	(—)
60 歳 代	30	25	5	—	—
	(100.0)	(83.3)	(16.7)	(—)	(—)
70 歳 代 以上	6	5	—	1	—
	(100.0)	(83.3)	(—)	(16.7)	(—)
不 詳	22	8	14	—	—
	(100.0)	(36.4)	(63.6)	(—)	(—)

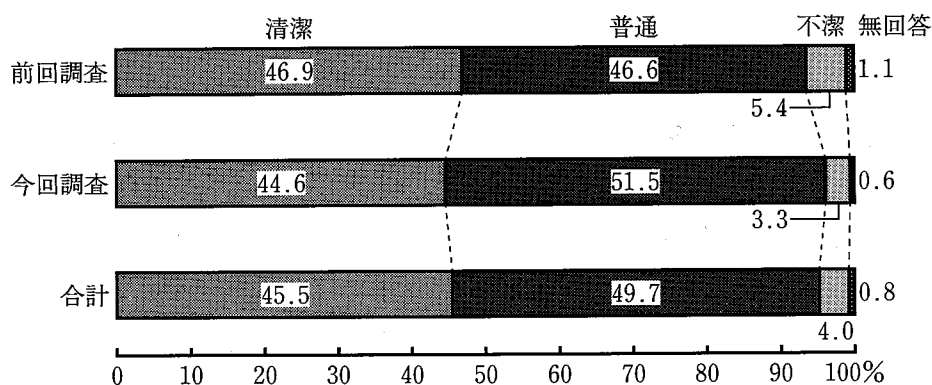
注 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、「清潔」と回答した者が44.6%、「普通」と回答した者が51.5%を占め、「不潔」と回答した者は3.3%である。

参観者の種類別、男女別及び年齢層別のいずれにおいても、「清潔」と「普通」に集中している。年齢層別では40歳代、60歳代及び70歳代以上の年齢層において、「清潔」の比率が「普通」よりも高い。

図10は、居室を見た日本人全体について、居室の衛生状態についての感想別構成比を前回調査と比較したもので、図の下段は、前回調査と今回調査の合計を示したものである。

図10 居室の衛生状態についての感想別構成比



「清潔」又は「普通」という回答を合計すると参観者の大部分（前回93.5%，今回96.1%）を占める傾向に変化はない。前回と同様に今回の調査においても居室内が「不潔」という感想を持った者（前回5.4%，今回3.3%）はごくわずかである。両調査の合計においても、「不潔」との回答は4.0%と非常に少ない。

### (5) 受刑者に対する職員の態度

受刑者に対する職員の態度について、参観者の感想を調査するため、「受刑者に対する職員の態度について、どのように感じましたか。」と質問し、自由記述で回答を求めた。

表30、表31及び表32は、受刑者に対する職員の態度についての感想を、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に見たものである。

表30 種類別受刑者に対する職員の態度についての感想

種 類	総 数	厳 し い			思いやり がある	職務能力 が高い	分から ない	規 律 正しい	その他	無回答
		肯定的	否定的	その他						
総 数	967 (100.0)	260 (26.9)	54 (5.6)	57 (5.9)	115 (11.9)	67 (6.9)	138 (14.3)	124 (12.8)	114 (11.8)	226 (23.4)
司法修習生	588 (100.0)	150 (25.5)	43 (7.3)	38 (6.5)	62 (10.5)	35 (6.0)	91 (15.5)	61 (10.4)	70 (11.9)	131 (22.3)
学 生	138 (100.0)	46 (33.3)	7 (5.1)	12 (8.7)	19 (13.8)	18 (13.0)	19 (13.8)	23 (16.7)	11 (8.0)	24 (17.4)
自 衛 官	23 (100.0)	2 (8.7)	— (—)	1 (4.3)	4 (17.4)	— (—)	4 (17.4)	1 (4.3)	— (—)	12 (52.2)
会 社 員	133 (100.0)	33 (24.8)	3 (2.3)	5 (3.8)	16 (12.0)	8 (6.0)	15 (11.3)	21 (15.8)	20 (15.0)	39 (29.3)
教育関係者	16 (100.0)	3 (18.8)	1 (6.3)	— (—)	1 (6.3)	1 (6.3)	3 (18.8)	2 (12.5)	4 (25.0)	4 (25.0)
そ の 他	64 (100.0)	24 (37.5)	— (—)	1 (1.6)	13 (20.3)	5 (7.8)	6 (9.4)	15 (23.4)	8 (12.5)	14 (21.9)
不 詳	5 (100.0)	2 (40.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)
外 国 人	51 (100.0)	13 (25.5)	4 (7.8)	4 (7.8)	5 (9.8)	4 (7.8)	6 (11.8)	6 (11.8)	4 (7.8)	11 (21.6)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

表31 男女別受刑者に対する職員についての感想

種 類	総 数	厳 し い			思いやり がある	職務能力 が高い	分から ない	規 律 正しい	その他	無回答
		肯定的	否定的	その他						
総 数	967 (100.0)	260 (26.9)	54 (5.6)	57 (5.9)	115 (11.9)	67 (6.9)	138 (14.3)	124 (12.8)	114 (11.8)	226 (23.4)
男 子	764 (100.0)	213 (27.9)	51 (6.7)	42 (5.5)	79 (10.3)	42 (5.5)	102 (13.4)	88 (11.5)	94 (12.3)	191 (25.0)
女 子	200 (100.0)	46 (23.0)	3 (1.5)	15 (7.5)	36 (18.0)	25 (12.5)	36 (18.0)	35 (17.5)	20 (10.0)	33 (16.5)
不 詳	3 (100.0)	1 (33.3)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (33.3)	— (—)	2 (66.7)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

表32 年齢層別受刑者に対する職員の態度についての感想

種 類	総 数	厳 し い			思いやり がある	職務能力 が高い	分から ない	規 律 正しい	その他	無回答
		肯定的	否定的	その他						
総 数	967	260	54	57	115	67	138	124	114	226
	(100.0)	(26.9)	(5.6)	(5.9)	(11.9)	(6.9)	(14.3)	(12.8)	(11.8)	(23.4)
10 歳 代	42	11	5	5	5	2	2	5	7	8
	(100.0)	(26.2)	(11.9)	(11.9)	(11.9)	(4.8)	(4.8)	(11.9)	(16.7)	(19.0)
20 歳 代	617	152	40	45	67	42	101	61	70	141
	(100.0)	(24.6)	(6.5)	(7.3)	(10.9)	(6.8)	(16.4)	(9.9)	(11.3)	(22.9)
30 歳 代	124	37	8	5	13	8	13	18	14	31
	(100.0)	(29.8)	(6.5)	(4.0)	(10.5)	(6.5)	(10.5)	(14.5)	(11.3)	(25.0)
40 歳 代	77	30	1	1	14	7	4	15	8	20
	(100.0)	(39.0)	(1.3)	(1.3)	(18.2)	(9.1)	(5.2)	(19.5)	(10.4)	(26.0)
50 歳 代	47	13	—	1	7	1	7	9	9	11
	(100.0)	(27.7)	(—)	(2.1)	(14.9)	(2.1)	(14.9)	(19.1)	(19.1)	(23.4)
60 歳 代	31	11	—	—	6	4	3	11	3	8
	(100.0)	(35.5)	(—)	(—)	(19.4)	(12.9)	(9.7)	(35.5)	(9.7)	(25.8)
70歳代以上	6	1	—	—	1	—	3	—	—	1
	(100.0)	(16.7)	(—)	(—)	(16.7)	(—)	(50.0)	(—)	(—)	(16.7)
不 詳	23	5	—	—	2	3	5	5	3	6
	(100.0)	(21.7)	(—)	(—)	(8.7)	(13.0)	(21.7)	(21.7)	(13.0)	(26.1)

注 1 重複計上している。

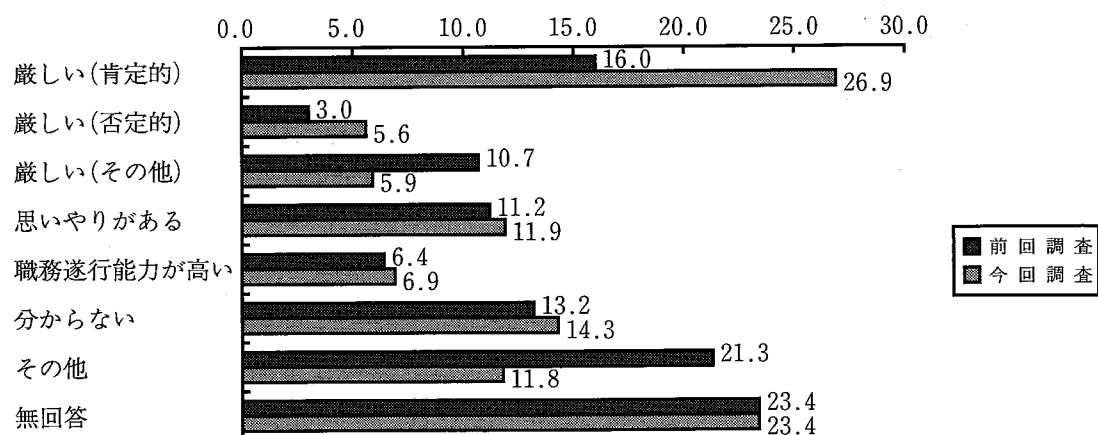
2 ( ) 内は、構成比である。

日本人全体では、「その他」を除くと肯定的な「厳しい」という内容の回答が26.9%と最も多く、否定的な「厳しい」という回答は5.6%とわずかである。

参観者の種類別、男女別及び年齢層別のいずれにおいても、回答の中では、肯定的な「厳しい」が最も多く、それ以外の内容では「分からない」、「その他」を除くと、「思いやりがある」、「規律正しい」といった肯定的な意見が多くなっている。

図11は、日本人全体について、受刑者に対する職員の態度に関する感想別構成比を前回調査と比較した結果である。

図11 受刑者に対する職員の態度についての感想別構成図



前回調査と比較すると、肯定的な「厳しい」という回答が著しく増加（前回16.0%，今回26.9%）し、「厳しい（否定的）」（前回3.0%，5.6%）も増加し、「厳しい（その他）」（前回10.7%，今回5.9%）及び「その他」（前回21.3%，今回11.8%）が減少しているが、その理由は、考察において説明する。

#### (6) その他の感想

表33、表34及び表35は、それぞれ参観者の種類別、男女別及び年齢層別に、「その他御感想がありましたら、どんなことでも構いませんから、お聞かせください。」という質問をした回答を集計したものである。

表33 種類別その他の感想

種 類	総 数	処 遇			設 備			雰 囲 気			その他	無回答
		肯定的	否定的	その他	肯定的	否定的	その他	肯定的	否定的	その他		
総 数	967	86	48	14	85	37	7	87	10	6	188	459
	(100.0)	(8.9)	(5.0)	(1.4)	(8.8)	(3.8)	(0.7)	(9.0)	(1.0)	(0.6)	(19.4)	(47.5)
司法修習生	588	44	35	12	46	26	4	50	6	5	101	294
	(100.0)	(7.5)	(6.0)	(2.0)	(7.8)	(4.4)	(0.7)	(8.5)	(1.0)	(0.9)	(17.2)	(50.0)
学 生	138	24	9	1	19	9	2	17	4	1	31	33
	(100.0)	(17.4)	(6.5)	(0.7)	(13.8)	(6.5)	(1.4)	(12.3)	(2.9)	(0.7)	(22.5)	(23.9)
自 衛 官	23	—	—	—	—	—	—	1	—	—	5	17
	(100.0)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(4.3)	(—)	(—)	(21.7)	(73.9)
会 社 員	133	11	4	1	9	1	1	13	—	—	22	81
	(100.0)	(8.3)	(3.0)	(0.8)	(6.8)	(0.8)	(0.8)	(9.8)	(—)	(—)	(16.5)	(60.9)
教育関係者	16	2	—	—	1	—	—	1	—	—	5	8
	(100.0)	(12.5)	(—)	(—)	(6.3)	(—)	(—)	(6.3)	(—)	(—)	(31.3)	(50.0)
そ の 他	64	4	—	—	9	1	—	5	—	—	24	22
	(100.0)	(6.3)	(—)	(—)	(14.1)	(1.6)	(—)	(7.8)	(—)	(—)	(37.5)	(34.4)
不 詳	5	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	4
	(100.0)	(20.0)	(—)	(—)	(20.0)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(80.0)
外 国 人	51	13	—	1	6	—	—	6	—	—	7	27
	(100.0)	(25.5)	(—)	(2.0)	(11.8)	(—)	(—)	(11.8)	(—)	(—)	(13.7)	(52.9)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

表34 男女別その他の感想

種 類	総 数	処 遇			設 備			雰 囲 気			その他	無回答
		肯定的	否定的	その他	肯定的	否定的	その他	肯定的	否定的	その他		
総 数	967	86	48	14	85	37	7	87	10	6	188	459
	(100.0)	(8.9)	(5.0)	(1.4)	(8.8)	(3.8)	(0.7)	(9.0)	(1.0)	(0.6)	(19.4)	(47.5)
男 子	764	63	35	12	48	30	5	64	8	6	147	389
	(100.0)	(8.2)	(4.6)	(1.6)	(6.3)	(3.9)	(0.7)	(8.4)	(1.0)	(0.8)	(19.2)	(50.9)
女 子	200	23	13	2	37	7	2	23	2	—	41	67
	(100.0)	(11.5)	(6.5)	(1.0)	(18.5)	(3.5)	(1.0)	(11.5)	(1.0)	(—)	(20.5)	(33.5)
不 詳	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	(100.0)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(100.0)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

表35 年齢層別その他の感想

種 類	総 数	処 遇			設 備			雰 囲 気			その他	無回答
		肯定的	否定的	その他	肯定的	否定的	その他	肯定的	否定的	その他		
総 数	967	86	48	14	85	37	7	87	10	6	188	459
	(100.0)	(8.9)	(5.0)	(1.4)	(8.8)	(3.8)	(0.7)	(9.0)	(1.0)	(0.6)	(19.4)	(47.5)
10 歳 代	42	4	1	—	5	—	2	2	—	1	6	22
	(100.0)	(9.5)	(2.4)	(—)	(11.9)	(—)	(4.8)	(4.8)	(—)	(2.4)	(14.3)	(52.4)
20 歳 代	617	58	34	7	53	26	4	58	7	3	113	292
	(100.0)	(9.4)	(5.5)	(1.1)	(8.6)	(4.2)	(0.6)	(9.4)	(1.1)	(0.5)	(18.3)	(47.3)
30 歳 代	124	7	10	4	9	8	1	8	2	1	20	—
	(100.0)	(5.6)	(8.1)	(3.2)	(7.3)	(6.5)	(0.8)	(6.5)	(1.6)	(0.8)	(16.1)	(—)
40 歳 代	77	7	—	—	4	—	—	10	1	1	19	43
	(100.0)	(9.1)	(—)	(—)	(5.2)	(—)	(—)	(13.0)	(1.3)	(1.3)	(24.7)	(55.8)
50 歳 代	47	8	1	1	7	2	—	3	—	—	13	17
	(100.0)	(17.0)	(2.1)	(2.1)	(14.9)	(4.3)	(—)	(6.4)	(—)	(—)	(27.7)	(36.2)
60 歳 代	31	2	—	—	4	—	—	2	—	—	12	11
	(100.0)	(6.5)	(—)	(—)	(12.9)	(—)	(—)	(6.5)	(—)	(—)	(38.7)	(35.5)
70歳代以上	6	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	3
	(100.0)	(—)	(—)	(16.7)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(33.3)	(50.0)
不 詳	23	—	2	1	3	1	—	4	—	—	3	12
	(100.0)	(—)	(8.7)	(4.3)	(13.0)	(4.3)	(—)	(17.4)	(—)	(—)	(13.0)	(52.2)

注 1 重複計上している。

2 ( ) 内は、構成比である。

回答は自由記述式であるため、次のように分類して集計した。すなわち、自由記述の内容を、処遇に関するもの、設備（建物、敷地、居室、備品等）に関するもの、雰囲気に関するもの及びその他の4種類に大きく分け、前三者については、さらに、肯定的感想、否定的感想及びその他に三分している。

なお、これは調査票の最後の質問であるためか、何も感想を記していない者が全体で半数近くおり、男女別では、男子の50.9%、女子の33.5%が無記入である。

日本人全体では、処遇についての感想が148人（日本人参観者の15.3%）と最も多く、以下設備についての感想が129人（同13.3%）、雰囲気についての感想が103人（同10.7%）となっている。いずれも、その多くは肯定的な評価（処遇に関する感想のうち58.1%、設備に関しては同65.9%、雰囲気に関しては同84.5%）である。

前回調査（処遇についての感想のうち53.3%、設備については同53.0%、雰囲気については同77.8%）と比較すると、処遇、設備及び雰囲気のいずれの分野に関する感想も、肯定的感想が否定的感想を上回っているという傾向に変化はない。

#### 4 考察

##### (1)日本人全体について

###### ア 規律全般

今回の調査では、回答者に対して、刑務所における規律の厳しさに対する価値判断を求めているが、その結果、厳しさを肯定する「厳正である」という回答が49.6%と、厳しさを否定的にとらえる「厳しすぎる」という回答の1.5%を大きく上回っていた。つまり、参観者の多くが刑務所の規律を厳しいと感じながらも、その厳しさを肯定的にとらえており、否定的にとらえている者は、ごく少数であることが判明した。



## イ 作業中の様子

今回調査において、日本人全体では、作業中の私語の禁止及びわき見の禁止について、「禁止は当然である」と回答した者が多数（私語の禁止では74.4%、わき見の禁止では70.3%）を占め、「禁止は不当である」と回答した者はわずか（私語の禁止では5.4%、わき見の禁止では9.4%）であった。この傾向は前回調査とほとんど変化はなく、参観者の多くが作業中の私語やわき見の禁止を当然ととらえていることが確認された。また、作業中の様子についての感想では、「まじめ」という感想が多数（54.4%）を占めているが、この傾向も前回調査と同様である。

## ウ 行進風景

今回調査において、「規律正しい」という回答が40.6%と最も多く、「整然としている」という回答がこれに次いでいる（22.9%）。この二つの感想を合計したものが多数を占めている傾向は、前回調査の結果と変わらず、参観者の多くが受刑者の行進を肯定的に受け止めていることが確認された。

## エ 居室環境

前回調査と同じく、受刑者の居室環境のうち、備品、広さ、明るさ及び衛生状態についての感想を調査したが、備品については「普通」が、広さについては「狭い」が、明るさについては「普通」が、そして衛生状態については「普通」がそれぞれ最も多かった。前回調査において、居室の広さについて「狭い」との回答が53.1%であったが、今回調査においては49.6%と3.5ポイント減少した。居室環境において、否定的な感想は少なく、良好又は普通であるとの感想が多数を占める傾向は前回調査と同様である。

## オ 受刑者に対する職員の態度

「その他」を除くと肯定的な「厳しい」という回答が26.9%と最も多く、「権威的である」など否定的な「厳しい」という回答は5.6%とわずかである。前回調査と比較すると、肯定的な「厳しい」という回答の比率が前回の16.0%から10ポイント以上増加している。また、今回調査では、「職務能力が高い」という回答が若干減少したが、その代わりに前回調査では、その他に分類されていた「規律正しい」という回答が12.8%も見られるなど、職員の態度に対する肯定的な回答の増加が顕著である。これは、前回調査において「その他」とした内容を、前回調査よりも詳しく吟味して分類した結果とも思われるが、日本人参観者のなかに、受刑者に対する職員の態度は厳しいが肯定できるとする意見が、前回調査よりも多く存在することを示唆しているのではないかと考えられる。

## カ その他の感想

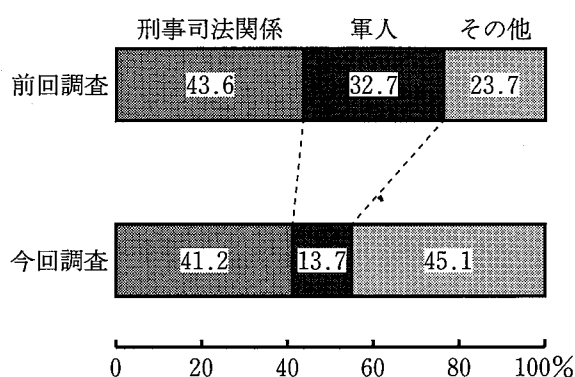
今回調査において、何も感想を記入しない無回答の者が非常に多かった。記入された感想では、刑務所について肯定的な感想が否定的な感想を上回っている。この傾向は前回調査と同様である。

## (2) 外国人について

前述のとおり外国人の参観者は少なかったため、日本人との比較は困難であるが、以下に外国人参観者について前回調査と比較した結果を略述する。

図12は、外国人参観者の職業別構成比を前回調査と比較したものである。

図12 外国人参観者の職業別構成比



前回調査と比較して、刑事司法関係者（前回調査43.6%、今回調査41.2%）の比率に変化はないものの、軍人の比率が顕著（前回調査32.7%、今回調査13.7%）に減少している。その他の職業とは、主婦、学生、大学教授等である。

### ア 規律全般

今回調査においては、「厳しすぎる」と回答した者が9.8%、「厳正である」と回答した者が60.8%であり、「普通」と回答した者は15.7%である。つまり、外国人参観者の場合も、その多くが刑務所の規律を厳しいと感じながらも、その厳しさを肯定的にとらえていることが判明した。

### イ 作業中の様子

作業中の「私語の禁止」及び「わき見の禁止」について、外国人参観者の感想は、「禁止は当然」とする者が私語については67.3%（前回調査78.2%）、わき見については53.1%（同56.4%）であり、禁止を当然とする者が多数を占める傾向に変化はない。また、「禁止は不当」という回答は、私語については26.5%（前回調査9.1%）、わき見については34.7%（同32.7%）であり、いずれも日本人より高い比率であるとともに、わき見についての許容度が私語の許容度よりも高いという前回の傾向に変化はない。ただし、私語の禁止について、「禁止は不当」として回答した者の比率が、三倍近く増加したことはやや異なる点である。これには、調査対象人員が少ないことに加え、外国人の職業別構成比の変化による影響が無視できない。

作業中の様子についての感想を見ると、日本人とは異なり、「社会復帰に役立つ」との回答が18.4%（前回調査34.5%）と多い。「自由がない」との回答についても16.3%（前回調査7.3%）であり、日本人よりも多い。前回調査において一人の回答者もなかった「まじめ」という回答は、今回調査において20.4%となり、大きな変化が認められる。これは、前回あった「暇を与えないのでよい」との回答がなくなったことの反映とも考えられる。

## ウ 行進風景

外国人のうち、行進風景を見たと回答した者は22人(外国人の43.1%)である。そのうち、7人(回答した外国人の31.8%)が「規律正しい」、1人(同4.5%)が「整然としている」とそれぞれ回答している。否定的意見と思われる「不自然である」又は「規律にしばられすぎ」との回答は合計して4人(同18.2%)である(前回調査では0%)。この結果もまた、調査対象人員が少ないことに加え、外国人の職業別構成比が変化したことの影響を無視することはできない。

ただし、肯定的意見が否定的意見よりも多い傾向は、前回調査と同様である。

## エ 居室環境

外国人のうち、受刑者の居室を見たと回答した者は50人(外国人の98.0%)である。そのうち、備品については82.0%(前回調査87.3%)、広さについては62.0%(同89.1%)、明るさについては72.0%(同83.6%)が、それぞれ「普通」と回答し、衛生状態については78.0%(同74.5%)が清潔と回答している。外国人の居室についての感想が、日本人以上に良好である傾向は前回調査と同様である。

## オ 受刑者に対する職員の態度

「厳しくてよい」が最も高く25.5%を占め、「思いやりがある」の9.8%がこれに次いでいる。「職務能力が高い」は7.8%(前回調査36.4%)であり、前回調査よりも減少した。否定的な意見(前回調査0%、今回調査7.8%)がわずかであるところは前回調査と同様である。

## カ その他の感想

記入の件数が少ないので比較は困難であるが、前回調査において設備及び雰囲気についてわずかに否定的意見(設備について1人、雰囲気について2人)があったのと比較し、今回調査においては、処遇、設備及び雰囲気について否定的な意見は見られなかった。

## 5 まとめ

年度を隔てて異なる集団に対して二度の調査を実施した結果、規律、作業、居室、職員の態度等ほとんどの項目において参観者の印象にはほぼ同様の傾向が得られたということであり、これによって前回調査の結果が確認されたと同時に、その信頼性が高まったと言える。すなわち、全般に、刑務所の規律、作業場面、行進風景、居室、職員の受刑者に対する態度のいずれについても、参観者の多くは肯定的な評価をしている。ただし、唯一、受刑者の居室の広さについては、狭いという評価が多めになっている。

今回の調査に使用した調査票では、規律についての感想の選択肢を変更したが、この結果判明したことは、日本人参観者の中で、刑務所内の規律について、「厳しすぎる」又は「緩やかすぎる」という意見を持つ者の比率は非常に少ないことであり、規律が厳正に保たれているとの回答をした者が約半数であったことである。この他に「普通」及び「緩やか」との意見も多く、これらを合計すれば、刑務所の規律について肯定的な意見を持つ者が大部分であるといえる。

受刑者に対する職員の態度についての感想では、前回調査と比べ「厳しい(肯定的)」との回答が顕著に増加しているが、これは前回調査において「その他」と分類した内容を詳しく見直した結果も影響しており、「厳しい(肯定的)」が多数を占めているという前回調査の傾向に変化はなく、むしろその傾向が強く現れていると見ることもできる。

最後に、今回の調査で新たに明らかになったこととして、参観者の多くが刑務所の規律や職員の態度に見られる厳しさを、「厳正である」あるいは「規律正しい」と肯定的にとらえているという事実を上げることができる。

## 第Ⅱ部 資料

### 資料1 調査票（日本語版）

アンケートのお願い

法務省法務総合研究所

このアンケートは、皆さんが刑務所を参観されての御感想や御意見をうかがい、今後の参考とすることを目的としていますので、御協力をお願いします。

回答は、番号に○を付け、自由記述式の質問はできるだけ具体的に書いてください。

男女別（1 男 2 女） 職業（ ）  
年齢（ ）歳 過去の刑務所参観経験（1 なし 2 あり）

(1) 刑務所内の規律について、どう感じましたか。

- |         |          |         |
|---------|----------|---------|
| 1 厳しすぎる | 2 厳正である  | 3 普通    |
| 4 緩やか   | 5 緩やかすぎる | 6 わからない |

(2) 受刑者が働いている場面を見ましたか。

- 1 見ていない  
2 見た（どんな仕事ですか ）

↓

見た人 [(2)の2に○をつけた人] だけお答えください。

(2)―A 受刑者は、働いている間は、作業中の事故防止や品質管理などのために、私語やわき見が禁止されていますが、作業風景を実際に御覧になって、どのように感じましたか。

① 私語について

- 1 私語の禁止は当然である  
2 私語の禁止は不当である  
3 その他（ ）

## ② わき見について

- 1 わき見の禁止は当然である
- 2 わき見の禁止は不当である
- 3 その他 ( )

(2)―B 受刑者が工場で働いている様子を見て、どのように感じましたか。

(3) 受刑者の行進風景を実際に見たり、ビデオなどで見ましたか。

- 1 見ていない
- 2 見た

↓

見た人 [(3)の2に○をつけた人] だけお答えください。

(3)―A 受刑者の行進風景を実際に見たり、ビデオなどで見て、どのように感じましたか。一つだけ○を付けてください。

- 1 整然としている
- 2 規律正しい
- 3 特段何も感じなかった
- 4 不自然である
- 5 規律にしばられすぎている感じ
- 6 その他 ( )

(4) 受刑者の居室（へや）を実際に見たり、ビデオなどで見ましたか。

- 1 見ていない
- 2 見た

↓

見た人 [(4)の2に○をつけた人] だけお答えください。

(4)―A 受刑者の居室（へや）を実際に見たり、ビデオなどで見て、どのように感じましたか。

## ① 備品

- 1 多い
- 2 普通
- 3 少ない

## ② 広さ

- 1 広い
- 2 普通
- 3 狭い

## ③ 明るさ

- 1 明るい
- 2 普通
- 3 暗い

## ④ 衛生状態

- 1 清潔
- 2 普通
- 3 不潔

(5) 受刑者に対する職員の態度について、どのように感じましたか。

(6) その他御感想がありましたら、どんなことでも構いませんから、お聞かせください。

～ご協力ありがとうございました～

## 資料2 調査票（英語版）

## Questionnaire (Form-F)

This survey was designed to collect information regarding comments and opinions about correctional institutions in the hope of utilizing the results in the study of correctional services. This survey shall not be used for any other purpose, and the names of the respondents shall not be disclosed.

In the multiple-choice questions, please circle the number corresponding to your most appropriate response. In short-answer questions or when you choose "other", please respond in detail.

Sex (1. Male 2. Female) Occupation ( )

Age ( ) Nationality ( )

Have you ever visited any correctional institution in Japan? (1. No 2. Yes)

(1) How do you feel about the order and discipline in the prison?

1. Exceedingly Strict 2. Strict But Fair 3. Moderate  
4. Lax 5. Exceedingly Lax 6. No Idea

(2) Did you see inmates working in workshops during the prison tour?

1. No  
2. Yes (Types of workshops: )

If you chose # 2 in the above question, please answer the following questions.

(2)—A In normal circumstances, inmates are not allowed to talk or to look around while working in order to prevent any accidents and to control the quality of the products.

How do you feel about the working conditions of inmates work in the workshops?

1. Prohibition to talk

1. It is reasonable to prohibit any talking among inmates while working.  
2. It is unreasonable to prohibit any talking among inmates while working.  
3. Other ( )

2. Prohibition to look around

1. It is reasonable to prohibit inmates from looking around while working.  
2. It is unreasonable to prohibit inmates from looking around while working.  
3. Other ( )

(2)—B In general, how do you feel about inmates working in workshops?

1. No                      2. Yes

1. Orderly
2. Disciplined
3. No impression
4. Forced
5. Excessively forced
6. Other (

1. No                      2. Yes

1. Furnishings
  1. Extensive
  2. Adequate
  3. Sparse
2. Space
  1. Big
  2. Adequate
  3. Small
3. Light
  1. Bright
  2. Adequate
  3. Dark
4. Hygiene
  1. Clean
  2. Moderate
  3. Dirty

- Thank you very much for your cooperation.



法務総合研究所研究部報告 2

---

平成 10 年 2 月 印 刷

平成 10 年 2 月 発 行

東京都千代田区霞が関 1-1-1

編集兼  
発行人 法 務 総 合 研 究 所

印刷所 ヨシダ印刷両国工場

---